

嘉麻市社協だより

No. 131

えが"お"



野球部に新たな歴史をつくるぞ！ ～碓井中学校～



社会福祉法人 嘉麻市社会福祉協議会

〒820-0205 福岡県嘉麻市岩崎 1143-3 稲築住民センター内

TEL 0948-42-0751 <http://kama.syakyo.com>
FAX 0948-83-8005 info@kama.syakyo.com

[f https://www.facebook.com/kama.swc](https://www.facebook.com/kama.swc)

発行日 / 2017.1.1

新春を迎えて

新年、あけましておめでとうございます。

みなさまにおかれましては、健やかな新年をお迎えのこことお慶び申し上げます。また、旧年中は、本会の活動に多大なるご支援ご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、本会は2年前から「相談援助」の機能を強化し、複雑・多様化した福祉ニーズをワンストップで受け止め、困っている「個」を支えることと、あらたな困窮者を生まない「地域づくり」に向けて、全力で取り組んでいるところです。この間において「もっと早く、誰かと出会えていれば…」との思いを強くもっておりますので、特に今年は、身近な地域（中学校区・小学校区）において、気になる方への早めの声かけや相談機関につながるような「予防的な活動」を、住民の方々とともに広げていきたいと考えています。

また、本年4月1日からは、社会福祉法人の制度改革等を目指して改正された社会福祉法に基づく法人運営、さらには、高齢者福祉分野における地域包括ケアシステムの構築を目指した総合事業の全面実施など、社会福祉法人としての存在価値や事業展開のあり方が、これまで以上に厳しく問われることとなります。

このような状況を踏まえつつ、本会は、今年も市民のみなさまをはじめ、嘉麻市行政等からの負託に応えるべく、役職員が丸となって努力して参る所存ですので、なお一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、みなさまのご多幸とご健勝をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。



社会福祉法人
嘉麻市社会福祉協議会
会長 村上 曙生

今月のブログ

本会では、日々の活動を紹介したり、いろいろな福祉情報を素早くお届けしたいという思いから、ホームページで、日記『嘉麻市社協のブログ』を書いています。そこから抜粋してきた記事をご紹介します。

<http://kamasyakyo.chobi.net/wordpress/>



今日は碓井地区の平山公民館で開催された敬老会におじゃまして、「認知症を地域で支える」をテーマに出前講座をさせていただきました。

認知症の方が困っていることやご本人と家族を地域で支えるために住民のみなさんができること、そして脳を活性化させる認知症を予防する方法などの話をしました。

「いつ自分になるかわからない」という声は住民のみなさんからも聞かれました。

誰もが住み慣れた地域で暮らし続けたいと、今後も住民のみなさんと一緒に地域づくりを行っていきたいと思います。

2016年11月27日（日）
平山地区で出前講座

今年の干支

名前は「らい」です。4年ほど前に、笹原本町行政区（碓井地区）の首藤さんのお宅にきました。頭を撫でてもらうことが好きで、時々ミッキーマウスマーチを歌います。

飼い主の首藤さんは「癒しの存在で、かわいいです」と、話していました。



住み慣れた地域で暮らすために

～大分県竹田市視察～

11月21日（月）から2日間
にわたり、大分県竹田市の地
域包括ケアの取り組みを視察
しました。

竹田市は、大分県の南西
部に位置し、岡城跡や久住
高原、長湯温泉など観光地
としても有名です。人口
22,950人、高齢化率
43・88%（平成28年9月
現在）で、嘉麻市が平成29年
度から実施する総合事業に、
平成27年度から取り組んでい
ます。

そのなかで、行政や社協だ
けでなく、生活に密着してい
る様々な機関と住民が一緒
になって、安心して、住み慣れ
た自宅で暮らし続けることの
できる地域にするためには、
何が必要なのか、どうしたら
よいのかを考える「よっちはな



そう会」が旧小学校区ごとに
広がっています。

また、いつでもだれでも気
軽に立ち寄ることのできる寄
り合い場やちょっとした困り
ごとの手伝いができる「暮ら
しのサポートセンター」が、
全ての旧中学校区に設置され
ています。そこでは、支え合
いの気持ちの基本となり、子
育てサロンや介護予防を中心
とした健康教室、できる人が
できる範囲でお手伝いをする
有償在宅サービスなど、住民
同士で支えあう仕組みを、地
域のみなさんと一緒ににつく
っています。

それぞれの地区の地域性も
様々で、生活をするうえで困
りごとは異なるため、福祉
にとらわれない活動を展開し
ています。

嘉麻市では、5つの中学校
区ごとに協議体を設置しま
す。本年度はその準備とし
て、毎月勉強会を開催してお
り、それぞれの地域の課題が
見えてきました。その中で私
たちに何ができるのか、でき
ない事はどうしていくのか
を、地域のみなさんと一緒に
考えながら、10年後、20年
後にも無理なく継続すること
のできる仕組みをつくってい
くことが大切だと感じました。

あったらいいなあを企画しよう

～協議体についての勉強会～

12月2日（金）、第9回目の協議体につ
いての勉強会を開催しました。今回は5つ
の中学校区ごとに会場を分け、住んでいる
地域にあったらいいなあと思う、社会資源や
仕組みをみなさんで考えました。

交通手段が少なく買い物に困っていると
いう課題は全地区に共通しており、実際に
商品を手に取り、自分の目で確かめながら
買い物を楽しむことのできる仕組みや、購
入した商品を自宅まで届けてくれる商店や
スーパーが増えたらいいよねという意見が
でました。山田地区では嘉麻商工会議所に
声をかけ、月に1回実施されている買物応
援バスツアーについて学びました。また稲
築東地区では、地域住民同士の交流や気軽
に集える場所になるように、公園の花壇づ
くりを企画しました。今回の勉強会で考え
たことが、今ある社会資源と結びつき嘉麻
市らしい仕組みをつくっていきけるように、
今後も地域づくりに取り組んでいきたいと
思います。

次回の勉強会では、初めての方が参加し
てもらえるように声をかけ、地域の方々の
あったらいいなあという思いをより具体的に
考えていきたいと思っていますので、ぜひ、ご
参加ください。

協議体の愛称を募集しています

嘉麻市では、平成29年度から5つの中学校区ごと
に協議体を設置します。協議体とは、地域にお住い
の皆さんで、困りごとを話し合いながら、その地域
に足りないものを考え、新しい仕組みを作っていく
ところです。そこで、各地区協議体の愛称を募集し
ます。その地域らしく親しみやすい名前を考えてい
ただけたらと思います。

お問い合わせ

嘉麻市社会福祉協議会 ☎0948-42-0751

協議体についての勉強会

●平成29年2月3日（金） 地区会「協議体について」

【稲築地区】時間10：00～12：00 会場：稲築保健センター

【碓井地区】時間13：30～15：30 会場：碓井地区公民館

【山田地区】時間13：30～15：30 会場：山田生涯学習館

【嘉穂地区】時間10：00～12：00 会場：夢サイトかほ

●平成29年3月3日（金） 全体会「協議体をつくろう」

時間13：30～15：30 会場：うすい人権啓発センターあかつき

今号では、半年前に起きた相模原事件を振り返り、匿名で伝えられた19名のかげがえのない命が失われたことに対して、みなさんと一緒に向き合い、考えていきたいと思います。NPO法人ちくほう共学舎「虫の家」事務局長の高石伸人さんに寄稿いただきました。

昨年の7月26日深夜、相模原市の障害者施設で、入所者19人の尊い命が奪われ、職員1名を含む27人が重軽傷を負う事件が起きました。あれ以来、たとえば孫の運動会の賑わいのなかに、スーパーに買い物に行った折の雑踏のなかに、ボクはひ容疑者が語ったとされる「障害者はいないほうがいい」という声なき声を聞くようになって、重く暗い気分を引きずっています。

ボクの3番目の子どもは知的障害という機能特性を持っています。例にもれず、保育所入所の時点から、「指導の手引き」の提出を求められ、小学校でも、「手がかかる」「遅れている」と言われ続けてきました。そんな先生たちの背中を見て、周りの子どもたちの中には、通りすぎりに頭を叩いたり、給食の残りの福神漬けを息子の机の引き出しに入れたりする子もいました。その度に、ボクは学校に足を運んで、校長や担任と話し合いを重ねたのですが、正直に大変疲れました。

もちろん、その学校が特別な訳ではありません。学校は社会の縮図で、息子に向けられる軽侮・憐憫・嘲笑の混じった視線は間違いなく社会の、そしてひ容疑者のものです。つまり、ボクたちの国が子を育てたの

です。

自分たちの住む町に、無関係な「他者」などいないはずなのに、知らずに誰かを仲間外しにしている。残念ながら、施設や病院に入って長期にわたるとボクたちは、まるで、「神隠し」にでもあったかのように、その人がいたことさえ忘れてしまうようです。

誰か一人を「役に立たない」からと切り捨てたなら、それは際限なく拡大し、あらゆる人の生が危険にさらされることを、事件は教えています。「自分の子どもが通う学校、自分の職場などで、『障害者はいないほうがいい』みたいなメッセージが出ていないか、点検することが大事」（渡辺琢）です。

そして改めて、「殺されていい命」などないことを

自他に呼びかけたいと思います。



高石伸人さん
プロフィール

NPO法人 ちくほう共学舎

「虫の家」事務局長。九州龍谷短期大学及び筑紫女学園大学非常勤講師。1949年生まれ。大学卒業後、(社福)直方市社会福祉協議会ソーシャルワーカーを経て、1997年から2008年3月まで九州龍谷短期大学教授。かたわら1986年から自宅敷地内で、障害者地域活動センター「虫の家」を共同運営。その一角に2008年から「杉野ハンセン病資料室」を開設した。著書に、『水俣50年―ひろがる「水俣」への思い』（作品社、共著）、『「新優生学」時代の生老病死』（現代書館、共著）など、論文に「証言…へらい予防法Vを生きて」「閉塞する死―『商品化社会』の精神に関する一考察」他がある。福岡県小竹町在住。

平成28年度第4期 市民後見人養成講座（基礎編）

11月24日（木）から、第4期市民後見人養成講座が始まりました。

市民後見人とは、成年後見制度などに関する知識を身につけたうえで、判断能力が十分ではない方の生活を、同じ地域で暮らす住民として、支える新たな役割者として期待されています。今回は市外の方を含む17名の方が受講されています。

初日は、弁護士の岩城和代さんから、「地域福祉と権利擁護」について話して

いただき、判断能力の不十分な高齢者・障がい者の尊厳を守るために成年後見制度があること、同じ地域で同じ市民目線で、本人の心に寄り添うことのできる市民後見人が求められていることなどを学ぶことができました。

その後のグループワークでは、かま権利擁護センターの木山センター長を講師に、4つのグループに分かれ、事例検討を行いました。



た。事例に関する課題整理を行い、必要な支援について考えました。一人一人違った意見が出る中で、その方の長所に目を向けることで、自分の価値観を押し付けないことなど、これから、学んでいく中で大切なポイントを確認しました。

これから約3カ月間、28コマの講座で皆さんと一緒に学習し、地域における支え合いの輪を広げていきたいと思います。

権利擁護フォーラムを開催します

「財産や相続のことで心配がある」「身寄りがなく、亡くなった後のことが不安」という相談が多く寄せられています。誰もが安心して暮らせる地域をつくっていくために、権利擁護の視点は欠かせないと考えます。今年は、品川区社会福祉協議会で成年後見センターを立ち上げ、様々な権利擁護事業に取り組んでおられる品川成年後見センター所長の齋藤修一さんからお話を伺います。市民のみなさんと一緒に成年後見制度について学び、取り組んでいくために、下記のとおり開催いたしますので、ぜひご参加ください。

記

【日 時】

平成29年2月17日（金） 13時30分～15時（受け付け：13時～）

【場 所】

夢サイトかほ 嘉麻市大隈町1228番地1

【テーマ】

「市民のみなさんと取り組む成年後見制度」

講師 品川区社会福祉協議会 品川成年後見センター 所長 齋藤修一さん
参加費は無料です。関心のある方はどなたでもご参加ください。

【お問い合わせ・申し込み先】

嘉麻市社会福祉協議会 かま権利擁護センター ☎0948-42-0751



成年後見Q & A



任意後見制度とはいったいどんな制度でしょうか？



任意後見制度とは、後見人は誰になってもらうのか、財産管理をどのようにしてもらうかなどを明確に決めた上で、契約書を公正証書にて結ぶものです。将来、判断能力が低下した時に備えて行う制度です。

かま ボランティア 市民活動センター情報

市民活動グループ紹介

VOL. 1

市民活動とは、社会にある課題の解決に向けて、市民が自主的、自発的に行うものです。このコーナーでは、嘉麻市内のグループや団体に、活動への思いやこれからの目標などを伺います。第1回は、「嘉穂三山愛会」です。

Q1 どのような活動をされているのですか？

嘉穂アルプス（馬見山、屏山、古処山）の登山道の整備や年3回のイベント（1月1日の馬見山ご来光登山、5月の馬見山山開き、8月の古処山探検隊）を中心に活動しています。



Q2 活動を始めてどのくらい経つのですか？

活動を始めたのは30年くらい前のことです。当初、初日の出を見るためには、ほとんどの人が市外の山に登っていました。でも地元にも素敵な山があるということを知ってほしいという思いから、会の活動がスタートしました。

Q3 嘉穂アルプスが日本山岳遺産に認定されたそうですが、どのような感想をお持ちですか？

これまでの地道な活動が実ったのかなととてもうれしい気持ちです。ただ、認定されたからといって何かを変えるわけではなく、これまでどおり肩肘張らずに活動していきたいと思っています。

Q4 市民の皆さんへのメッセージ

登山は、季節、天候、メンバー、ルートなど、同じ山でも毎回違った表情を見ることができ、一人でも多くの方に楽しんでも多くの方に興味を



ご来光登山では、初日の出を見ながら雑煮を食べます。

持ってもらって、近くにとってもいい山があることを知ってもらいたい。そして、会の活動にも参加してくれればとてもうれしいなと思っています。

「自分たちのグループの活動を知ってほしい」、「協力者や仲間を増やしたい」、「イベントを開催するので多くの方に参加してほしい」などのご意見やご要望を下記までぜひお寄せください。

ボランティア・イベント情報

駅伝ボランティアの募集

県内の子どもたちが学年や勝ち負けに関係なく楽しく走る、ふくおか子ども駅伝in嘉麻が開催されます。

この大会で、運営を手伝ってくださるボランティアスタッフを募集しています。

記

日時 平成29年2月19日(日) 8時30分～15時

集合場所 山田生涯学習館(嘉麻市上山田1347-10)

活動内容 テントの設置、コース運営など

募集締切 平成29年1月20日(金)

備考 屋外の活動のため、防寒対策をお願いします。

水泳ボランティア

ふぁん・ファン・funでは、小学生を中心とした障がいをもつ子ども達と一緒に水中でのレクリエーションの補助をしていただける方を募集しています。

記

日時 毎月第4土曜日 10時30分～11時30分

場所 山田サルビアパーク(嘉麻市上山田352)

活動内容 水中レクリエーションの補助

募集締切 毎月第2金曜日

備考 水着、タオル、水泳帽子をご用意してください。活動後は軽食を準備します。

【お問い合わせ先・お申し込み先】 かま ボランティア・市民活動センター ☎0948-42-0751

今月の一冊

ズレてる支援!

知的障害／自閉の人たちの自立生活と
重度訪問介護の対象拡大



著者／寺本晃久 岡部耕典
末永弘 岩橋誠治
出版社／生活書院

平成24年の障害者総合支援法の成立を受け、平成26年から、長時間の見守りを含めた介助ができる「重度訪問介護」という枠組みが身体障がいを持った方だけでなく、他の障がいを持つ方も利用できるように拡大しました。このことで、今まで地域で暮らすための支援や介助が不足し施設で生活していた方も、長時間の支援を受けながら自宅で生活することが可能になりました。

この本は、4人の著者により、知的障がいや自閉症を持つ方たちの自立生活を支援する中で、実際に感じた疑問や葛藤が書かれており、障がいを持った方と支援する人との間で起こる「ズレ」をテーマにしたものです。

一人暮らしを始めたばかりの知的障がいを持つKさんのお話です。著者が夕方訪問する際、必ず全ての電灯を消し、部屋を真っ暗にして過ごしているKさん。

「部屋を明るくすればいいのに」といつも思っていたそうです。ある日、真っ暗な中どうして過ごしているのか気になり、早めに訪ね裏から様子を伺ったところ、部屋に灯りはついていました。しかし、玄関に回りベルを鳴らすと、どんな灯りを消しはじめ、全て消し終えたところで玄関の戸を開けていることが分かったそうです。著者は、「Kさんは私のために電灯を消してくれている」と仮説を立てました。Kさんは自分自身が家に帰ってきたとき、電灯が消えている状況が当たり前であるため、外から人が家に入ってくるときも同じ状況にしておかなければ、パニックになると考えたのではないかと。そう考えると、「不可解で意味のない行動をするKさん」と受け取っていたけれど、本当は感謝として受け取らなければならなかったと著者は語っています。

「いつも電灯を消してくれてありがとう。だけど暗くなるから電灯を消さなくてもいいですよ。」と伝えると、電灯をつけたまま開けてくれるようになったそうです。

考え方や価値観は人それぞれであり、そもそも最初からズレていると考え、そのズレに気付こうとしなければ、当事者の気持ちに寄り添った支援は難しい。そう考えさせられた一冊になりました。

(ますぎ)



炭鉦の記憶

No.117

宮地行政区は、三井山野炭鉱で働く方々の生活の場として栄えていて、農閑期には、他の地方から働きに来る人たちもおられたほどです。当時の様子を同行行政区の西川光義さんに話を伺うと、「今は取り壊されて、畑になっているところもあるけど、当時はびっしり住宅が建ちよったんだよ」と教えてくれました。

その一角には、共同浴場もありました。その名残が下の写真です。この建物は共同浴場があった場所から1mくらいの脇道を挟んだところにあり、湯を沸かすために用いる石炭の貯蔵庫として活用されていました。

近くにお住まいの岩橋恵美子さんによると、中央の下の方



にある穴からスコップで石炭を取り出して運び燃やしていたそうです。昭和48年の閉山とともに共同浴場は廃止となり、この貯蔵庫もその役目を終え、コンクリートで補強されながら、今もなお、ひっそりと佇んでいます。

山田ふれあいハウスからのお願い

山田ふれあいハウスでは、子育てリユースセンターを開設しています。使わなくなった子ども服、中学校や高校の制服などは揃っていますが、ベビーカーが不足しています。ご家庭で、使わなくなったベビーカーがありましたら、ぜひご協力ください。



連絡・問い合わせ先 山田ふれあいハウス 嘉麻市上山田502番地6 ☎0948-52-1847

消費生活相談員さんに聞きました!

Q 男の人が家に来て、使っていない貴金属を売ってほしいと言われました。しつこかったので、根負けして昔使っていたものを売ってしまいました。取り戻すことはできますか？



訪問買取の場合、事前連絡なしでの訪問勧誘は禁止されています。また買い取り価格などを記載した書面を交付しなければならないことになっていて、それを受け取って8日以内であれば、クーリングオフを適用でき、取り戻せます。またこの間の品物の引き渡しも拒否できます。これは基本的に訪問で買い取りされるすべての物が対象となりますが、一部、大型家電や家具など対象外となる品物もありますので、詳しくは飯塚市消費生活センターにお問い合わせください。



飯塚市消費生活センター ☎0948-22-0857

飛鳥会館でご葬儀をされるご家族のうち、8割の方が事前相談に来館されています。葬儀に関する疑問、予算等気兼ねなくお尋ねください。

家族葬にあわせたプランもご用意し、スタッフが心を込めてお手伝いいたします。



嘉麻市漆生298-1 ☎(0948)42-4241

指定葬祭場紹介
飛鳥会館 南斎場



嘉麻市社会福祉協議会指定葬祭場は、飛鳥会館 南斎場を含め、市内に8ヶ所あります。

きど葬祭やまさ碓井斎場..... ☎62-4499	かほ葬祭 あじさい会館..... ☎62-5566
ひさつね会館..... ☎52-0758	善光会館 稲築会場..... ☎83-5000
いすや会館..... ☎57-4444	おかむら葬祭岡村会館..... ☎42-4420
セレモニーホールおおつか..... ☎52-1212	

えがお 1 月号

ふっふっふの手紙



下臼井出身
直方市在住

嶋田 カツエさん

No.131

「小中学校の思い出」

旧碓井小学校の校庭には、二宮金次郎の銅像が建っていました。右の校舎が地盤沈下のため傾いて、つっぱり棒をたくさんしてあった光景が思い出されます。他の学校で陸上競技会が行われた時のことです。他校の生徒から「碓井学校、つっぱり学校」といわれ、悔しい思いをしたものです。碓井小学校が体育実験学校といわれていた時は、加藤宝先生のご指導の元、鉄棒で前回りの授業を他校からお見えになった大勢の先生方の前で披露し、大変緊張したことを思い出します。

小学校の運動会で一番心に残っているのが「分団リレー」です。子どもたちが一生懸命走っていると、お酒に酔ったお父さん達が一緒に走って応援され、校庭中が大歓声で沸きあがり今では考えられない光景ですが、その楽しかった思い出は忘れられません。

中学校では入場行進の練習で、全校生徒の足並が揃うまでせられ大変きつく、苦しい出です。男の子の勇ましい騎馬戦や一寸の乱れもない組体操の「ブリミッド」は、大変

感動したものです。

私の育ったところは下臼井です。千手川と嘉麻川と緑豊かな日吉神社があり、夏休みは幼馴染と嘉麻川の橋の欄干から飛び込み、石を投げ川底から拾ってくる遊びをし、神社ではかくれんぼ、缶蹴り、境内の杉の木々の間をくづらを持って右から左へと飛び移るターザンごっこ、冬は三歳以上の兄の手作りの竹ソリで遊び、夕方に「ごはんよー」の母の呼び声で走って帰ったものです。私はお転婆で勉強嫌いな子だったので、勉強のことは思い出せません。

私の村では子ども会の活動が活発でした。「朝起会」と称するものがあり、日曜日の朝8時頃から、境内を清掃しお堂にみんなで輪になり一週間の反省会をし、夜は村中を「マッチ一本火事の元 カチ、カチ」と夜回りしたことが懐かしく思い出されます。

夏休み一番の楽しみは、飯田の町のお地藏さんの祭りです。飯田の町が人で溢れんばかりの人並みの中を押されて、飯田の町の高台にある「護国神社」と「お地藏さん」をお参りし出店でヨーヨーを買ってもらい、しばんで小さくなるまで遊びました。

編集後記



(きはら)

P4の寄稿「殺されていい命なんてない！」を読み、自分の中にある差別の心が、無関係な他者を作り出していることを知りました。ぜひ感想をお聞かせください。



(たけがわ)

嘉穂三山愛会の取材で、活動への思いを語っていただいているときの皆さんの表情は、とても楽しそうでいきいきとされていて、山への愛情の深さを感じました。



(おがわ)

男女混合の部員4名で頑張っている碓井中学校野球部に、表紙を飾っていただきました。新しい年を迎え、白球を真剣に追いかける姿に気が引き締まる思いです。



(あかま)

嘉麻市第4期市民後見人養成講座がスタートしました。17名の受講者の皆さんと一緒に学習し、新たな地域住民の支え合いの輪を作っていきたいと思います。



(ますぎ)

今月の一冊では、障がいを持った方と支援者との間に生じる「ズレ」について書かれた本を紹介しました。人と向き合うとき、先入観を取り払うことが大切であると学びました。



(とくなが)

協議体勉強会では、地域にお住いのみなさんと、協議体設置について話をすることができ、来年度からのイメージが膨らんだ時間になりました。

社協だよりクイズ

「広報紙えがお」を読んで、次のクイズにお答えください。正解者の中から抽選で2名の方に、図書券（千円分）をプレゼントします。

問題

平成28年11月24日から市民後見人養成講座が始まりました。今回の講座は何期目になるでしょうか？

(1) 第1期 (2) 第3期 (3) 第4期

●応募方法

①クイズの答え、②広報紙の感想、③郵便番号・住所、④氏名、⑤年齢、⑥電話番号をご記入の上、1月31日（必着）までにハガキ、またはEメールにてご応募ください。

●送付先

〒820-0205 嘉麻市岩崎1143番地3
嘉麻市社会福祉協議会 E-mail:tiiki@kama.syakyo.com

●前号のクイズの答え (3) 地域支援

筑豊ブロック市町村社協連絡協議会主催の公開講演会で、講師の岩間さんは、個別支援と地域支援を一体的に進めていくことが大切であると話されました。

●応募のあった方から社協だよりの感想をいただきましたので、紹介します。

・今月のブログを読んで、嘉穂アルプスが日本山岳遺産に認定されたことを知りました。この壮大な自然も嘉麻市の魅力のひとつだと思いました。

※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。